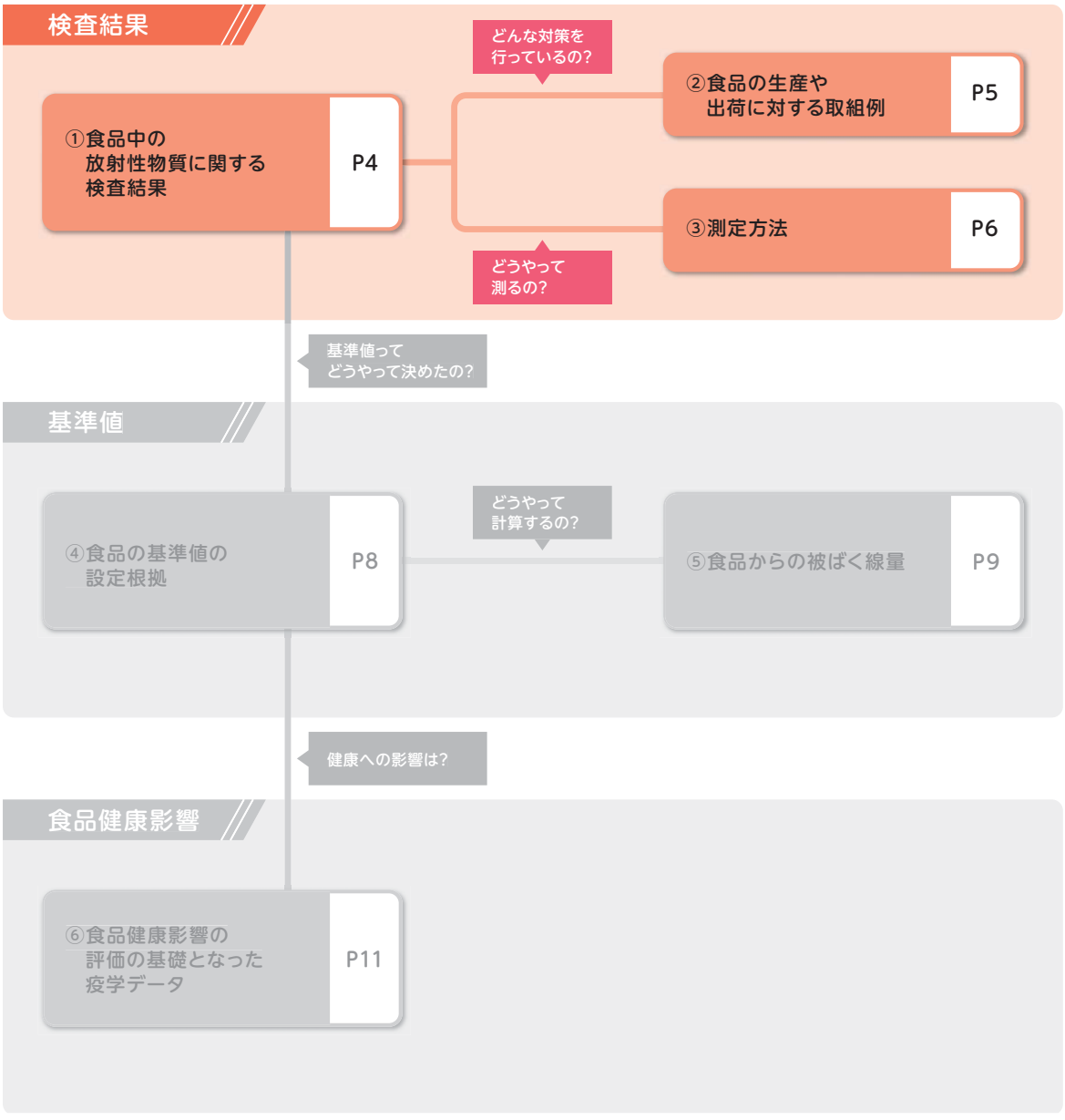
放射線の健康影響と５つのテーマ　食べる

テーマ　検査結果

日常的によく食べられている食品について、カテゴリー別に事故後から現在までの放射性物質の検査結果の推移を知ることができます。放射性物質の濃度の測定に使用される測定機器もあわせて紹介しています。



①食品中の放射性物質に関する検査結果

東京電力福島第一原子力発電所事故により、食品からの被ばくに対する不安が広がりました。しかしながら、放射能の減衰や各種の取組によって、市場に基準値を超える食品が流通することはありません。

◉ 食品ごとの検査結果

食品の安全性を確保するため、一定の放射能濃度の食品が流通しないようにするための検査に加え、食品が放射性物質に汚染されないようにするための様々な対策が実施されています。その結果、現在では基準値を超える検査結果は見られなくなっており、基準値を超えた食品は流通していません。
検査結果は厚生労働省や地方公共団体において公表しています。

●厚生労働省　食品中の放射性物質への対応
https://www.mhlw.go.jp/shinsai_jouhou/shokuhin.html
●食品中の放射性物質検査データ
http://www.radioactivity-db.info/

調査結果の公表は令和４年度版 下巻 52 ページを参照
調査の詳細は令和４年度版 下巻 73,76,81,84,86 ページを参照

◉ 流通食品での調査（マーケットバスケット調査）

2011年度からマーケットバスケット方式により、平均的な食事に含まれる放射性物質の量を調査しています。調査の結果、食品中の放射性セシウムから人が１年間に受ける放射線量は、現行基準値の設定根拠である年間上限線量１ミリシーベルト/年の0.1%程度となっています。
各食品ごとの検査結果、出荷制限や摂取制限等に関する情報は、国や地方公共団体のホームページなどを通じて公開されています。
厚生労働省ホームページ該当ページのURL　https://www.mhlw.go.jp/shinsai_jouhou/shokuhin.html

年間の放射線量の詳細は
令和４年度版 上巻 65 ページを参照
調査の詳細は令和４年度版 下巻 62 ページを参照

②食品の生産や出荷に対する取組例

様々な対策により、検査の結果、現在は基準値の超過はほとんど見られなくなっています。

◉ 農産物に係る放射性物質の移行低減対策

農産物に係る放射性物質の移行低減対策の一部を紹介します。

● 農地の除染

表土の削り取り

農地土壌を薄く削り取り、土壌表層に蓄積している放射性物質を除去

表層土と下層土の反転

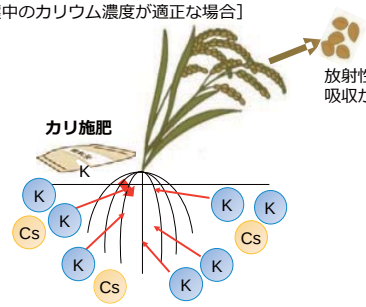
表層土と下層土を反転することで、作物が吸収する層の放射性物質濃度を低減

農林水産省「農林水産現場における対応」より作成　農林水産省

● カリ施肥による吸収抑制対策

・玄米中の放射性セシウム濃度が高い水田は、土壌中のカリウム濃度が低い傾向
・土壌中のカリウムは、セシウムと化学的に似た性質を有しており、適切なカリ肥料の施用により、作物によるセシウム吸収抑制が可能

［土壌中のカリウム濃度が適正な場合］

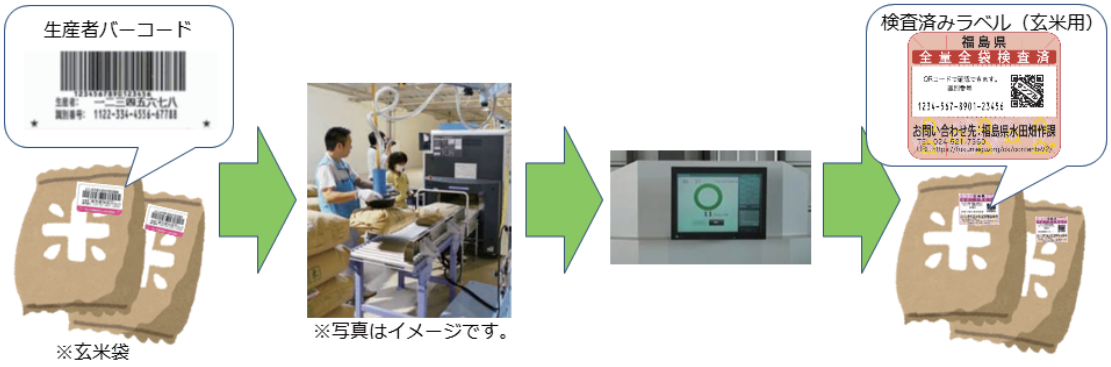


農林水産省「食品中の放射性物質検査結果について」より作成　農林水産省

取組の詳細は令和４年度版 下巻 68,69 ページを参照

◉ 福島県における米の放射性物質検査

福島県では、検査ガイドラインに基づく検査とは別に、2012年産米から県内全域で全量全袋検査を実施していました。2015年以降の通算５年間基準値を超過したものがないことから、2020年産米からは旧避難指示区域等の一部の地域を除き、全袋検査からモニタリング（抽出）検査へ移行しています。



全ての米袋に生産者バーコードを貼り、検査場に持ち込む

ベルトコンベア式検査器でバーコードを読み取り、放射性物質を検査

放射性物質が基準値以下のみ合格

合格した玄米に検査済ラベルを貼る

QRコードで検査結果を確認可能
「ふくしまの恵み安全対策協議会」
https://fukumegu.org/ok/contents_V2/kome_summary_2.html

※福島県のホームページ等に基づき作成。

農林水産省「農林水産現場における対応」より作成　農林水産省

取組の詳細は令和４年度版　下巻 75 ページを参照

③測定方法

基準値を超過した食品が流通することを防ぐために、食品中の放射性物質に関する検査が実施されています。ここでは、検査がどのように実施されているかを説明します。

◉ 検査の手順

食品の検査は、以下の手順により行われます。

※非破壊検査法では、細切を行わず測定が可能。

厚生労働省ウェブサイト「食品中の放射性物質への対応」より作成

検査の手順の詳細は令和４年度版　下巻 66 ページを参照

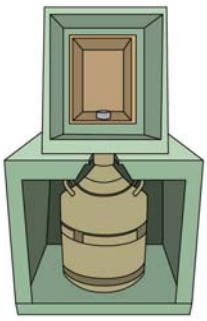
◉ 検査の種類

①効率的なスクリーニング検査と②精密な検査の２種類を組み合わせることで、効率性と安全性に配慮して実施されています。

各検査の詳細は令和４年度版 下巻 66 ページを参照

① NaI(Tl) 食品モニタ

取扱いが簡単で、また検出効率も比較的大きいことから、食品等の効率的な放射能測定に適している。



② Ge 半導体検出器

食品や土壌の放射能測定に用いられる。γ線のエネルギー分解能に優れており、低レベルの放射能濃度測定に効果的。

測定機器の詳細は令和４年度版 上巻 44 ページを参照